

自己評価結果公表シート（令和5年度）

1. 学校の教育目標

「なんでもごいっしょ」 「いっしょうけんめい」 「すなおでよいこ」

- ★ 心の育つ大切な時期に聖書を通して「神の愛」を知り、思いやりの心・感謝の心・奉仕の心を培う
- ★ よく考えて工夫し、自分の個性をすすんで表現し、のびのびと行動できる子どもに育つ
- ★ 集団生活の中で、自分の存在・役割に気づき、責任をもってすすんで働く子どもに育つ
- ★ 何でも途中で放り投げたり挫けたりせず、少しずつ粘り強くやり抜いていく力を育てる

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

1. 作物を自分で育て、それを食育に繋げていく
2. 縦割り保育の充実を図り、上級者が積極的にリードし、責任をもって行動が出来る様に主体性を育てる。
3. 特別支援を必要としている園児が増えている中で、それぞれが異なる発達や異なる援助が必要であることから、専門家から直接指導を受け、支援が必要な子どもたちが生活しやすい環境を保障しながら育ちを援助していく
4. 科学あそびをきっかけに生活の中にある不思議を体験する

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
(1) 食育	A	作物を自分たちで育てる中で、食への意識が高まり、それを自分たちで料理したり作ってもらったりしながら食べることで、食への関心を深められた。採りたての野菜の味、特に自分が生長に関わっている野菜への興味は大きく、家では食べなくても幼稚園で採れた野菜は食べられるなど、集団ならではの成果が得られた。
(2) 縦割り保育	A	生活を縦割りですることによって、縦の関係が深まり、下級が上級を頼りにし、教師よりも信頼を寄せている場面を見かけることもあった。上級は下級に信頼され、特に上級の不安定な子の意識が高まり自己肯定感が育ち、主体的に活動できるよう変化していった。縦割りでのグループで活動の場合、下級を従えるのは難しいが、上級は下級が納得のいくように指示して行動させながら1日を過ごす。この活動では上級の責任感が育つと共に縦の関係も更に深まった。
(3) 特別支援教育	A	発達に課題を抱える子どもたちが、その子に合った育ちを保障され、自然に自分から集団に入っていけるように配慮されている人的環境が特に評価された。支援児の意思を尊重しつつ、集団へ誘導しながら徐々にクラスでの生活や友だちに馴染み、友だちにも受け入

		れて貰える環境が自然に出来ている。
(4) 科学あそび体験	A	身近にある物を使って実験遊びを行った。炭酸の仕組みやチーズがどのように出来るかなど、家にあるものでいろいろな体験が出来ることを楽しんだ。実験を楽しんだ子どもたちが、家に帰ってからその体験を保護者に話したり、家でもやりたいと要求したりしていた。不思議体験は子どもたちの心をわくわくさせ、意欲が湧いていくのを感じた。

4. <学校関係者評価>

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業体験では、種をまいてから水やり、雑草抜き、間引き等、育っていくまでに多くの仕事がある。それを一つひとつ体験することによって育てる苦労や収穫の喜び、それを食した時の感謝、育てた達成感を味わうことが出来ていて、土いじりの少ない昨今での農作業体験は得るものが多く、大いに評価されるべき点である。また、生長の様子を絵に描いたり、当番が生長の様子を発表したりすることは、小学校への学びの学習にも繋がっていくと評価される。 ・縦割り保育では、下級に責任もって世話をすることは信頼関係を築く難しさがあったりするが、関係を築けたときの喜びは、本人の自己肯定感を向上させ自信と信頼を得たことによる達成感や人格の形成に大いに影響する点であると評価される。 ・特別支援教育においては、今年度から臨床心理士も交えて協力支援が強化出来たことは、支援児がより安心して育ちを保障される環境が整えられていることが評価される。 ・科学あそびでは、今年度初めての試みであるが、専門家の指導で不思議な世界を体験でき、子どもたちの心のわくわく感と自分もやってみようという好奇心を引き出し、学びを実践出来ていることは子どもの意欲にも繋がりが大いに評価される。

◎「3. 4. 」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
① 特別支援教育の充実	特別支援児の能力の見極め 言語指導・運動機能を向上させる取り組み 個別の支援を充実させていく取り組み 専門家と教職員が連携してより良い育ちの環境を整える
② 安全対策	職員間の連携を深め、どんな場合でも子どもの命を最優先に守る行動が取れるよう役割分担を徹底し、それぞれが的確に動ける訓練を行う 子ども自身が危険に気付き、自分の命は自分で守るという意識を高めていく指導を行う
② コミュニケーション能力の向上	自分から上手く表現できない子どもの個別支援 思いを伝えられない子どもの取り組み 入園前の体験が不足している子どもに対する援助 会話力の向上